

平成30年度 事故概要一覧表

平成30年4月～平成31年3月

No.	発生・受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			原因者判別区	事故概要
			水域名	派川名	場所等	魚死亡	油浮遊	その他		
1	6月13日	6月13日	長沢川		長沢2丁目6先長岡橋付近			○	判明	6月13日(水)15:30頃、北下浦行政センターから環境管理課に「市民から長沢川が白濁していると連絡があり、センター職員が長岡橋を確認したところ白濁があった」との連絡があった。 現場確認を行ったところ、長岡橋で白濁を視認、上流側を探索したところ、雨水幹線(長沢排水区雨水第二幹線)から明灰色の濁水が流入していることを視認した(長岡橋でpHは異常なし)。 流入地点では砂状の沈殿物が確認されたため、シルトやセメントミルクの流入が想定された。当該雨水幹線の上流側で工事等が行われていないか捜索したところ、グリーンハイツにて建築工事が行われていた。 工事業者に事情聴取したところ、「建設工事で掘削(杭打ち)を行っていたが、擁壁の亀裂や水抜き穴から濁水が漏れ出てしまった。」とのことであり、長沢川で確認したものと同一色の濁水が敷地外へ流出していることを確認したため、原因者だと断定した。 なお、薬剤やセメント等を使用する前であり、漏れ出した濁水を確認したところpHに異常は無かった。 原因者に対しては、濁水の河川への流出を防止するため、側溝を清掃するよう指導した。
2	6月15日	6月15日	平作川		平作1丁目2-20			○	判明	6月15日(金)15:30頃、消防局予防課から「事業者より地下タンクが破損したとの連絡があり、現場確認したところ、道路側溝を経由して平作川まで重油が流出している。」との連絡があった。 現場確認を行ったところ、道路側溝に茶色い油が見られたが、平作川では視認できなかった。 消防局から連絡のあった事業所に立入を行ったところ、地下タンク(1,900L)が破損し、コンクリートピット内へ重油が流出していることが確認できた。 地下タンクの他に地下配管は存在せず、地上タンク(1,600L)や地上配管、給油箇所でも重油が漏れた形跡がないことから、地下タンクだけでなくコンクリートピットも破損し、周辺の土壌へ重油が流出しており、降雨時に雨水系統へ染み出しているものと断定した。 原因者に対しては、敷地外への油の流出を阻止すべく地下タンクから重油を抜き取るよう指導した。 また、道路側溝に流出した油については清掃するよう指導した。 後日、水質汚濁防止法及び神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づく報告書が提出され、これを收受した。
3	8月7日	8月7日	平作川		平作1丁目大門橋付近			○	不明	8月8日(火)15:30頃、県土木河川砂防課から「市民から平作川が白濁しているとの通報があった」との連絡があった。 現場確認を行ったところ、平作川の平作排水区第四雨水幹線流入口から下流にかけて青みがかった白濁が川幅全体に見られた。油膜や臭いは無く、pHは7.0であったことから、原因は水性塗料が疑われた。 魚等の死亡は確認できず、カモが平常通り泳いでいたことから、水生生物への影響は無い様子であった。 白濁が流入したとみられる雨水幹線の上流を探索したが、原因者を特定することができなかった。 現場確認時はすでに白濁の流入が止まっており、これ以上の原因究明が難しいことから、原因者不明として調査を終了した。
4	9月29日	9月29日	東京湾		大津漁港			○	判明	9月29日(土)16:30頃、守衛から「大津漁港が白濁している」との連絡があった。 現場確認を行ったところ、大津漁港の湾全体に白濁が見られた。油膜や臭いは無く、魚等の死亡は確認できなかった。 すでに原因者は判明しており、聞き取りを行ったところ、近隣マンションの外装工事中に屋上防水の保護塗料が雨により流出したとのことだった。原因者には塗料を回収し更なる被害拡大を阻止するよう指導した。 流出した塗料には、県条例に規定する事故時における物質(水質の汚濁に係る物質)は含まれていなかったため、第113条第2項に定める報告書は收受せず、再発防止を指導し調査を終了した。 翌日には白濁はほぼなくなった。
5	11月27日	11月27日	長沢川		牧水橋付近			○	不明	11月27日(火)15:50頃、河川課から「市民から長沢川が白濁しているとの通報があった」との連絡があった。 現場確認を行ったところ、白濁はほぼ消失しており、牧水橋から上流側には異常は見られなかった。流入元と思われる雨水管や付近の道路側溝に異常なかった。 現場確認時はすでに白濁の流入が止まっており、これ以上の原因究明が難しいことから、原因者不明として調査を終了した。
6	12月10日	12月10日	和田川		鴨居交番前			○	不明	12月10日(月)15:50頃、河川課から「鴨居交番から和田川が青色に着色しているとの通報があった」との連絡があった。 現場確認を行ったところ、鴨居交番前で青白色の着色を確認したが、ほとんど消失しており、上流及び下流には着色は確認できなかった。 また、通りがかった近隣住民に話を伺ったが、河川の異常等についての情報は得られなかった。 現場確認時はすでに着色水の流入が止まっており、魚の死亡等も確認できなかったことから、原因者不明として調査を終了した。

平成30年度 事故概要一覧表

平成30年4月～平成31年3月

No.	発生・受信月日	調査月日	発生場所			事故区分			原因者判区	事故概要
			水域名	派川名	場所等	魚死亡	油浮遊	その他		
7	12月12日	12月12日	東京湾				○		判明	12月12日（水）10：00頃、原因者から「非常用発電機から燃料が漏れ東京湾に流出した」との連絡があった。 現場確認を行ったところ、原因者敷地の排水口から半径3m程度の海面に薄い油膜が広がっていた。 すでに回収対策が行われており、排水口を囲うようにオイルフェンスが設置され、場内の開渠に流出した燃料については清掃しバキュームカーで汚水を吸い取る作業が進められていた。 このため東京湾への新たな流出は止まっていた。 後日、原因者から報告書を受取り、再発防止に努めるよう指導した。
8	1月22日	1月22日	鷹取排水区雨水第1幹線		鷹取2-11-7先			○	判明	1月22日（火）9：30頃、河川課から「市民から、鷹取の水路が白濁しているとの通報があった」との連絡があった。 現場確認を行ったところ、すでに白濁は消失していたが、水路底に白い沈殿物があったことから、原因は鷹取水路2丁目先の護岸で行われていたモルタル吹付工事であることが判明した。 水路の水のpHは中性で、水生生物への被害も確認できなかった。 原因者へは、水路底に堆積したモルタルの清掃と再発防止を指導した。